

## 評価結果概要表

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870104308
法人名	有限会社メディカルサポート
事業所名	グループホームわかば(3階)
所在地	愛媛県松山市若葉町7-6
自己評価作成日	平成26年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者は介護されるだけの受け身な存在ではなく、入居者と介護者が共に支え合って暮らす事に重きをおいて支援している。介護者からの「これやってください」ではなく、入居者からの「私がしょうか?」と思わせる関わり方・声掛けの仕方に気を付けています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎朝、職員は事業所付近を清掃することを続けておられ、近所の方から、「いつもありがとう」と声を掛けてもらっている。  
 毎年、積まつりに行くことが恒例になっている利用者がおられ、職員は開催日を調べて出かけられるよう支援されている。ご自分で梅干しや干し柿を作る習慣があった方には、他利用者と一緒に楽しみながら続けられるよう支援されている。時期になると、利用者から「梅はもう出とるかな」「漬ける瓶があるかな」と聞いてくれるようだ。又、干し柿は、吊るした後も柿を揉んでくれて食べごろになるまでお世話をしてくださっている。居室に仏壇を持ち込んでいらっしゃる方が数名あり、お盆には迎え火や送り火等もできるよう支援されている。  
 職員は、「外気に触れると利用者の表情が和らぐ」ことに気付き、機会を見つけては外に出られるよう誘っておられる。日常的には、毎日数名ずつ交代で散歩したり、近くのスーパーへの食材の買い出しやおやつを買いに行ったり、希望で宝くじを買いに行く方も支援されている。皆での外出は、行事係の職員が、利用者の希望を聞きながら計画を立てており、季節のお花を見に行ったり、イチゴ狩りや地域の神社へ初詣に出かけたりしている。又、手作りのお弁当を持って道の駅にドライブすることもある。ケーキの美味しいお店やドーナツ店でティータイムを楽しむ機会も作っている。

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目: 11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)		

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームわかば

(ユニット名) 3階

記入者(管理者)

氏名 森 莉映子

評価完了日

2014年 10月 1日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 25年度に理念の見直しを行った。 各階(フロア)の目につく場所に掲示し、全職員に周知、実践できるように意識している。	理念とは、事業所が目指すサービスのあり方を示したのもでもあり、常に立ち戻る根本的な考え方でもある。今後さらに、チームで利用者の暮らしを支えていくためにも、地域の方やご家族、又、職員で理念を共有していけるよう取り組まれてほしい。
			(外部評価) 25年度には、職員それぞれに「普段のケアで大切にしていること」を出し合い、法人代表者が理念の原案を作り、すべての職員で、「家庭的な環境と地域交流のもと・笑顔とやさしさあふれる穏やかな暮らし・個性を重視し健康で生きがいもてる生活・地域に支えられ地域と共に生きるふれあいづくり」と決められた。法人代表者は、運営推進会議時に新理念を発表して思い等をメンバーに話された。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 施設周囲の清掃活動を通じてふれあいを持ったり、地域行事(盆おどり、運動会、防災訓練など)や運営推進会議に参加して頂き、情報を頂いたり、交流できるようにしている。	
			(外部評価) 毎朝、職員は事業所付近を清掃することを続けておられ、近所の方から、「いつもありがとう」と声を掛けてもらっている。法人全体で行う「納涼祭」は、地域の方やご家族にも案内を出し、職員手作りの焼きそばやカラオケ等を一緒に楽しめるよう企画している。「敬老会」時には、津軽三味線のボランティアが黒田節や炭坑節を演奏してくれて、利用者も口ずさみ楽しまれた。又、地区の盆踊り大会や文化祭、運動会にも参加して、利用者が地域と交流できるよう支援されている。地区の運動会には、職員が競技に参加し、利用者の応援にも力が入ったようだ。毎年、町内会と一緒に楽しむお花見は、今年は悪天候のため利用者は参加できなかったが、地域の方々に法人建物のスペースを提供し、お弁当を食べたりカラオケを楽しんでもらった。秋祭りには、事業所の駐車場を神輿のかき手の休憩所として開放されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 2ヶ月に一回の運営推進会議に地域の方(町内会長・民生委員等)に参加して頂き、施設の近況や皆様の意見に応え、ご理解して頂けるよう努力している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	2ヶ月に一回の運営推進会議にて、入居者の状況や施設行事などの報告を行い、参加者からは地域の行事を知らせて頂いたり、ご意見を頂き、活かせるようにしている。	
			(外部評価)	会議には、町内会から会長や副会長、会計や相談役等数名をはじめ、地域住民の方や民生委員、ご家族等が参加されている。事業所から利用状況や行事報告、研修報告を行った後、「事業所に必要な事や困っている事」をテーマに挙げて意見交換されている。今年2月に、事業所内でノロウイルス感染が広がったことがあり、3月末の会議時には、経緯や今後の対策について詳しく説明された。昨年11月の会議後には、参加者と一緒に避難訓練が実施された。又、行事計画を説明する際には、会議の出席者にボランティアの協力についてもお願いしている。管理者は「報告中心の会議になっている」と感じており、今後さらに、「ご家族が気軽に参加できるような会議内容も考えていきたい」と話しておられた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	2ヶ月に一回の運営推進会議には必ず参加して頂いている事のほか、ボランティアに来て頂いたり、日頃から電話や出向いて連絡をとり、コミュニケーションに取り組んでいる。	
			(外部評価)	運営推進会議には、市の介護保険課や地域包括支援センターの担当者が参加されている。ノロウイルス感染が広がった折には、市保健所から感染源の拡大防止のための指導を受けられた。このことを機に、事業所では排泄物の始末の方法や消毒液の適切な量、靴裏の消毒の仕方等を見直し、新たにノロウイルス感染時の対応マニュアルを作成された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	夜間以外は、玄関の施錠をせず、安全に注意しながら見守りできる様に取り組んでいる。	
			(外部評価)	事業所は、建物の2・3階に位置しており、エレベーターのドア開閉時にはチャイムが鳴るようになっている。エレベーターのボタンは、カバーを掛けており、利用者が使用する際には、職員が付き添うことになっている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  外部講師による社内研修を、2014年10月21日に実施予定している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  外部講師による社内研修を今後計画予定。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  十分な説明を行い、改正時には説明とともに同意書を頂き、ご理解の上で実施をしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  地域の方、行政、包括等の参加による会議の中、ご家族出席も必ず呼びかけ、できるだけ参加をして頂くとともに、ご意見・ご感想等を頂き運営に反映している。  (外部評価)  毎月、ご家族には、利用者個々の担当職員が、利用者の「身体面」「情緒面」「日常生活の様子」について、ご本人の言葉を盛り込みながら手書きした報告書と事業所便りが送付されている。担当職員名も記入されていることから、ご家族は担当職員を知っており、担当宛に連絡されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 主任会・各階フロアミーティングを行い、職員の意見を聞き、反映できるよう話し合えるようにしている。	
			(外部評価) 各ユニット毎のミーティング時には、毎回、法人代表者も参加して職員の意見等を聞いておられる。今年8月、管理者の交代があったことを機に、各ユニットに主任職員が配置された。職員は意見や提案があれば主任と話し合い、「まずはやってみよう」と意欲的に取り組まれている。利用者の状況変化に伴い、職員の業務の役割分担等についても話し合っているところである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 主任会・各階フロアミーティングに出席、さらに個人面談も実施、状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 2月に1回、外部講師による施設内職員研修及び事務所より研修の案内があれば、職員全員が見られるよう掲示してもらい、参加案内ができるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) ケアマネ連絡会や民生委員等にデイサービスの休館日を会議場として活用して頂き、交流するよう機会を作り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に訪問や面会し、情報収集し、安心して生活して頂けるよう努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査を行い、サービスの利用を開始する前に、ご家族の話を開くとともに、施設についても不安の無いよう十分な説明を行い関係作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 事前調査による十分な説明により、支援のあり方について、本人・家族がご理解されるように努める。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 出来る事と出来ない事の見極めを行い、出来る事が活かせる現場作りに努めている。 声掛けの仕方にも注意し、やる気が出る雰囲気作りをしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時での近況報告、緊急時の電話連絡、毎月利用者の現況報告手紙等、本人と家族の絆が深まるよう気づかい、共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家具や衣類、愛用品などを持ってきて頂いている。 家族だけでなく、近所の方、友人の方も自由に面会に来て頂いている。 (外部評価) 毎年、椿まつりに行くことが恒例になっている利用者がおられ、職員は開催日を調べて出かけられるよう支援されている。利用者は、お孫さんに縁起飾を買って帰ることを楽しみに出かけられるようだ。親しくしていたご自宅の隣人が会いに来てくれて、ご自宅の様子を話してくれたり、受診に付き添ってくれたりする。ご自分で梅干しや干し柿を作る習慣があった方には、他利用者と一緒に楽しみながら続けられるよう支援されている。時期になると、利用者から「梅はもう出とるかな」「漬ける瓶があるかな」と聞いてくれるようだ。又、干し柿は、吊るした後も柿を揉んでくれて食べごろになるまでお世話をしてくださっている。居室に仏壇を持ち込んでいる方が数名あり、お盆には迎え火や送り火等もできるよう支援されている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 難聴があったり、視力が悪い方でも会話が楽しめたり、コミュニケーションが取れるように、職員が間に入り、利用者同士の関係性が円滑に行えるように努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院されたりして利用終了しても、お見舞いに出向くなどしてフォローし、何かあれば相談や支援できるように努めている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望の訴えがある方については、その希望が叶えられる努力をしている。 訴えの少ない方については、ご家族に話を聞いたり、会話の中から聞き出し、思いに添えるようにしている。 (外部評価) 職員は、利用者との普段の会話や様子等からご本人の「したい事」を見逃さないことに努めておられる。「畑をしたい」という利用者の声があり、敷地内に小さな菜園を2ヶ所作っている。土を耕して肥料を入れトマトやブロッコリー等を育てている。他利用者も水やりや収穫等を行い、皆で協力しながら畑仕事ができるよう支援されている。又、利用者は歌うことが好きな方ばかりのようで、一日に何度か歌を歌う時間を作っている。マラカスを振りながら歌う方もあり、楽しい時間を持つことが穏やかな一日につながっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査を行い、入居時にフェイスシート・アセスメントを作成し、情報収集に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) アセスメント表にて一日の過ごし方を把握し、どのような支援が必要であるかを細かく記録し、職員が皆同じ支援が出来るように努めている。	



## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)  毎月モニタリング、カンファレンスにて意見を出し、家族の意見も考慮しながら、必要であればすぐにプランを変更し、現状に即した支援が出来るようにしている。	さらに、利用者主体の介護計画が作成できるような仕組み作りに工夫されてほしい。又、現状に即した介護計画の作成に取り組んでいかれてほしい。
			(外部評価)  ご家族の来訪時に、意見や要望を伺っている。遠方のご家族には、電話や帰省時等を捉え聞くようにされている。利用者が「身体を動かすのが好き」とお話をされたことをご家族に伝えた際、ご家族から「毎週来て30分程度一緒に散歩する」との提案があり、事業所でのリハビリや散歩に加えて、ご家族とともに支援しているケースがある。モニタリングは3ヶ月毎に行い、6ヶ月毎の介護計画の見直しにつなげている。現在、業務全体の見直しをすすめており、「介護計画作成の流れ」についても検討を重ねており、ユニットによっては計画作成が遅れがちになっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)  日々の介護記録以外、連絡ノートを使用し、情報を共有しながら介護計画に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)  ケアプランの見直し等、家族を含めたアセスメント・カンファレンスにより、その時々にも生まれるニーズに対応した柔軟な支援に取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)  消防署協力のもと、ホームの避難訓練を実施したり、地域との防災訓練に参加させて頂くなどし、地域資源との協働に努めている。 また、民生委員・ボランティア等による行事への協働にも努めている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
				協力医療機関の往診を受けているが、入居前から通院されている方、家族と話し合い希望にそえるようにしている。
			(外部評価)	
				利用者の状態を記入する「連絡表」にて主治医とやりとりしており、定期の往診のほかにも必要に応じて診てもらえるようになっていく。受診は基本的にご家族にお願いしているが、ご家族が遠方に住んでいる方や専門医の受診時には、職員が同行されている。今年5月、誤嚥事故があり、同月に緊急時の対応の社内研修を実施し、研修後には、研修内容を踏まえながら緊急時対応マニュアルが作成された。
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
				変化があれば報告・相談し、早めの対応ができるようにしている。
			(外部評価)	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
				面会時に医療関係者や家族とも相談し、柔軟に対応できるよう努めている。
			(外部評価)	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
				本人の意向を聞きながら家族とも話し合い、今後の方針を決めて取り組んでいる。
			(外部評価)	
				入居契約時には、事業所の「看取りの指針」に沿って、希望があれば最期まで看ることをご家族に説明している。現在、ご本人が「自然に任せて、治療は望まない」「ここで最期まで」と言われ、事業所での看取りを希望している方が複数おられる。

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 東村内科医院と医療連携契約を行っており、24時間体制で急変や事故発生時の備えはできている。 内部研修にて救急対応の訓練を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 年2回の避難訓練を実施している。 緊急連絡網を作成し、連絡体制を整えている。 緊急連絡網には町内会長と地区の民生委員の連絡先も入れさせてもらっている。 今年9月には「南海トラフ地震防災規程」を作成、防災対策計画を消防署に提出している。 (外部評価) 昨年11月の運営推進会議後には、会議メンバーと一緒に夜間の火災を想定した避難訓練が実施された。地域の方には、一度帰宅してもらい、事業所に設置されているサイレンを鳴らす場面から開始された。事業所から町内会長に連絡網を回すと、地域の方が駆けつけてくれるようになっていく。職員は、毛布を使って避難させる方法や水消火器を使った消火訓練も体験した。消防署からは、「実際に備えて、誰をどのように誘導するか具体的に決めておく必要がある」とアドバイスがあった。今後、津波や地震等の様々な災害に備え、消防署に相談しながら、防災訓練計画書を作成する予定になっている。地域の防災訓練には職員が参加しており、避難場所の小学校まで避難経路を確認したり、傷等の処置を行う講習も受けられた。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりに合わせた言葉かけの工夫を心掛けている。 本人のプライバシーに関わる支援を行う際には、さりげなく支援することを心掛け、まわりに知られないように注意している。 (外部評価) 職員が笑顔で挨拶すると、利用者同士も笑顔で挨拶することから、職員は「笑顔は伝染する」を感じており、特に一日の始まりには「おはよう」と笑顔で挨拶することを心がけておられる。利用者同士の関係が上手い場合もあるが、本音を言い合えるよう、職員は様子を観察しながら仲に入るようにしており、以前より親しくなるようなこともあるようだ。利用者のお誕生日会は、ご本人のお誕生日当日にお祝いするようにしており、職員から寄せ書きした色紙や記念品をプレゼントしたり、希望の献立をお聞きして、お祝い膳を用意している。トイレ介助時には利用者の羞恥心に配慮して、視線を合わせないよう気を付けたり、声のトーンや大きさ、又、トイレ使用時は、一人になれるよう配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員が指示したり決めつけたりすることなく、本人が選択できるように支援している。 また、ゆっくりと話を聞くように心掛け、思いを訴えやすいように働きかけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ある程度の生活リズムは大切にしながら、一人ひとりのペースに合った生活が出来るように支援している。 本人希望で買い物に出かけたり、散歩に出かけたりしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 女性入居者の方には、入浴後に化粧水でお肌を整えたり、着替え時には何着か準備し、選択できるよう支援したり、外出時には口紅をつけたりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一緒に料理本を見て献立を決めたり、盛り付けでテーブル準備をお願いしたりしている。誕生日には本人の好きなものをメニューに取り入れてお祝いをしている。	
			(外部評価) 2階ユニットは毎日、3階ユニットは1週間毎、利用者の希望を聞きながら献立を立てて職員が食事作りされている。利用者で買い出しに行った時に、「これが食べたい」と食材の希望があれば、献立に一品加える等している。利用者は、食材の下ごしらえや盛り付け等を行ったり、魚をいただいた時には、さばくことに困った職員に代わって行ってくださることもある。調査訪問時には、ランチョンマットを片付けたり、食器拭きをする方が見られた。ご家族から、食事について、「量が少ない」「おかずは多めでご飯は少なめ」「おかずを少しずつ」等の意見もあり、ご本人の希望等もお聞きしながら調整されている。事業所の菜園で収穫したナス、トマト、きゅうり、ブロッコリー等が食卓に上っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人に合わせた食事量を心掛けている。 水分量も本人が負担に思わないよう細目に提供したり、好きな時に飲めるように準備している人もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) めんどくさがる方もいらっしゃるが、声掛け誘導し、毎食後行っている。 自分でできない方は、介助して行っている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個別に排泄パターンを把握し、定期的に声掛けをしたり、すぐにおむつにするのではなく、綿パンツに尿もれパットで対応している。	
			(外部評価) 日中は全員の方が、トイレで排泄できるよう支援されている。ご家族によっては、「大変だから紙パンツにして」と言われる方もあったが、職員は、利用者には「トイレに行きたい時のサインがある」ことを話して、布パンツを使用しトイレで排泄できるような支援に取り組まれている。夜間ポータブルトイレを使用する方は、ベッドの枕元に鈴を付け、鳴らして職員を呼べるようになってきている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 油物や肉類に偏らないように献立を組んでいる。排便を促すために牛乳を飲んでもらったり適度に運度を取り入れたりしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 体調、状況に合わせて入浴できるように心掛けている。入浴希望があればいつでも入浴してもらえるよう対応している。	
			(外部評価) 利用者個々に週2～3回を目安に、午後から入浴支援されている。「体力的に疲れるので週2回にしたい」と言われる方や「毎日入りたい」「一番風呂がいい」「長湯が好き」等、それぞれの希望に沿って支援されている。冬至には柚子湯を楽しまれている。入浴を嫌がる方には、「体重を計りましょう」等と声かけたり、時間をずらして誘うと入浴につながるようなこともあるようだ。現在は、全員湯船で温まれるよう支援されている。浴槽をまたぐことが難しい場合には、隣接するデイサービスの機械浴を利用できるようになっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の状態に合わせて休息できるよう支援している。なかなか眠れない方は眠くなるまでフロアで過ごしたりしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) お薬情報書をファイルしており、職員がいつでも確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事や作業に参加してもらったり、習慣になっている食べ物を食べたりできるように支援している。 手伝ってもらった際には、必ず感謝の言葉をかけるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望があるときには、出来るだけその日に買い物や散歩に出かけられるように努めている。 外食などの支援については、ご家族の協力を得て支援をしている。	
			(外部評価) 職員は、「外気に触れると利用者の表情が和らぐ」ことに気付き、機会を見つけては外に出られるよう誘っておられる。日常的には、毎日数名ずつ交代で散歩したり、近くのスーパーへの食材の買い出しやおやつを買いに行ったり、希望で宝くじを買いに行く方も支援されている。皆での外出は、行事係の職員が、利用者の希望を聞きながら計画を立てており、季節のお花を見に行ったり、イチゴ狩りや地域の神社へ初詣に出かけたりしている。又、手作りのお弁当を持って道の駅にドライブすることもある。ケーキの美味しいお店やドーナツ店でティータイムを楽しむ機会も作っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を使用することはあまりないが、本人の希望に添い、個々少額の現金を所持している。 そのことについては家族の了解も得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) フロアの電話を使用して、いつでも電話できるようにしている。 手紙を読むことができない方には、職員が代わりに読んで、やり取りができるように支援している。 手紙を書き、出しておいて欲しいと頼まれ、職員が投函したりしている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 共有スペースには日常の写真を貼ったり、季節に応じて壁飾りを替えたりしており、生活感や季節感を感じてもらえるようにしている。	
			(外部評価) 台所は、対面式になっており、職員は食事作り等しながら利用者の見守りや会話等をされている。調査訪問日の昼食後には、ソファでウトウトする方や、仲の良い利用者同士でおしゃべりしたり、テーブルで、食器拭きやパズルをする方もみられ、利用者それぞれに過ごしておられた。居間の一角には神棚があり、利用者のお一人が、お供えの塩や米、榊の水かえをされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 外を眺めることが好きな方には、ベランダにイスを持ち出し、ゆっくりと座って過ごせるようにしたり、利用者同士で会話やコミュニケーションがとれるようにソファを置いている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人の愛用品や家族の写真などを飾り、居心地よく過ごせるように工夫している。 居室の配置は本人の状態を考えながら、危険のないようにしている。	
			(外部評価) 居室の入り口には、利用者それぞれに職員手作りの表札をかけており、暖簾が掛けてあった。L字型に机を配置して書斎スペースを作っている方もあり、手紙を書いたり、切手コレクションを整理する等、趣味の時間を楽しまれている。本棚にはお若い頃していた商売の帳簿も並べてあった。配偶者の遺影を置いている方は、毎日手を合わせており、供えるしきびは職員が付き添い買いに行かれている。ご家族から、「窓際から冷気が入り込むのでベッドの配置を替えてほしい」、又、居室の整理や掃除の希望が多く、ご家族の希望等も踏まえて支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 取りやすい位置、見えやすい表札、分かりやすい場所などを工夫して、出来るだけ自分のことは自分で出来るような支援をしている。	
			(外部評価)	